

令和6年9月定例会一般質問

通告7

質問 町道における熊襲撃対策の実施を

答弁 ヒグマ目撃情報を新聞等で注意喚起します

4番 ながぶち 長瀬 ゆたか 豊 議員

【質問：長瀬 豊 議員】

4番、長瀬豊でございます。町道における熊襲撃対策について質問させていただきます。

8月25日午後11時頃起きた、西竹町道でのことあります。熊の出没発見状況は令和5年で73件、令和6年度で8月末で40件となっています。町の対応も非常に大変だと思っております。

今回、8月25日の目撃情報は、今までにない襲いかかってきた事例であります。周辺の酪農家は作業のときにも花火を鳴らしながら、また、1人で歩かない、ペットの餌も置きっ放しにしないなど、できる対策を実施しています。今これから二番草やデントコーンの収穫作業に入り危険度が増します。

うろつき歩く熊への対応は難しいと思っておりますけれども、何かあってからでは遅いので、一般の目撃情報とは別物と考えるべきなので、現在の対策をどのように行っているかお伺いします。

また、町のGISか単なるデータかちょっと分かりませんが、熊の目撃情報は地図にプロットされポイントされていますが、過去データと合わせて、生息数、熊のテリトリーなどへの把握への活用はどのように行われているのでしょうか。駆除対策に使われているのでしょうか。お聞かせください。以上です。

【答弁：町長】

長瀬議員御質問の町道における熊襲撃対策の実施につきまして、御答弁申し上げます。

御質問の当該事案につきましては、ヒグマとの接触事故連絡を受けた後、直ちに猟友会と対策協議を行っております。

その結果、車両が交差点を曲がった際、その車両の急接近に驚いたヒグマが防衛反応と



して飛び出したことが原因であるとの見解を得ております。

そのため、ヒグマが積極的に人を襲った事案ではなく特別な対応は不要と判断し、ヒグマ目撃情報として報道発表するとともに、猟友会支部長に当該地域における当面の見回りの強化の要請を行っております。

また、熊目撃情報を活用した駆除対策でございますが、ヒグマの目撃情報では、当該ヒグマの特定につながる特徴の報告を得ることは困難であり、個別の識別が不可能となっております。

このことから、目撃場所や大きさ、連れている子熊の数など、一般的な個別判別や行動範囲の予測にとどまっております。

引き続き、春の山菜シーズンや秋の行楽シーズンにおいて、ヒグマの活動が活発化する時期に合わせて注意喚起に努めるとともに、寄せられましたヒグマの目撃情報を基に、ヒグマ出没情報として当町が運営するSNSでのお知らせや新聞報道などを通じて取組を進めてまいりますので、御理解を賜りますようお願いいたします。